

# 事務局だより

無届けデモの時代がやってきた

吉田 和雄

●めつきり寒さが身に沁みる季節となりましたが、読者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。前号の小欄でもお知らせしましたように、来年5月3日の憲法記念日にむけた市民意見広告運動が10月から本格的にスタートしました。「核も武力も命と生活を守らない」と大書した賛同呼びかけのリーフレットを今号のニュースにも同封させていただきましたので、どうぞご協力ください。

野澤前事務局長が、本号のニュースを編集しながら、次期意見広告運動の事務局長として、何人もの献身的な事務局スタッフの皆さんといっしょに意見広告運動を明るく盛り上げています。



げています。事務所には既に全国から賛同金が続々と寄せられ、ファックス用紙が渦を巻くように、リーフの送付依頼やグッズの注文も舞い込んでいます。それでも事務所内は今夏以来の整理清掃作業の継続によってキレイになっていきます。お気軽にお訪ねください。

●11月4日、11日と意見の会事務局メンバーは連続して集会・デモに参加しました。11月4日は「止めるぞ！ オスプレイの沖縄配備、許すな！ 低空飛行訓練 11・4全国集会」。オスプレイの飛行訓練の強行によって沖縄県民の怒りが頂点に達している時、私たちも自分達の問題として受け止めて沖縄と連帯して闘おうというものでした。直前の10月16日にはまたしてもというべきか、沖縄で米兵2名による集団強姦致傷事件が occurred。米兵の性暴力を終わりにしよう」との怒りと全ての人々の願いを踏みにじりつづける日米安保条約の破棄と日米地位協定の改正を実現していかなければならないと気持ちを新たにしています。

●11月11日は、「11・11反原発100万人大占拠」行動でした。私たちは、大間原発再開反対を訴える東銀座・Jパワー本社前の抗議活動の後、無届けデモのような状態で、国会議事堂正門前をめざし「再稼働反対」「大間は大間違い」とコールしながら歩きました。

冷たい雨の中、1万人以上の参加者（警察発表8千人）が経産省、文科省、首相官邸前

などの各所から、午後5時〜7時まで国会正門前を取り囲むように占拠しました。この行動は市民運動史としても大きな意味を持ったと私は感じています。というのは、東京都は国会正門前大集会の前段デモの集合場所として日比谷公園の使用を認めなかったからです。そのため、この日の行動を呼びかけた首都圏反原発連合は、これまで3月、7月にも数万人以上のデモの集合・出発地点として使用できたのに今回使用できないのはおかしいと行政裁判に訴えましたが、東京高裁でも抗告却下されました。東京都の規定に従えば、1〜2年前から予約しないと使えない日比谷野外音楽堂か日比谷公会堂の2か所を集会会場として事前におさえないと日比谷公園からデモは出発できないことになってしまいます。「市民の集会やデモの抑え込みをねらった、運用方針の改変であるのは明らか」（11・10朝日新聞社説）です。

「東京都は公園からデモをする自由を奪うな」と抗議することは必要ですが、「だったら歩道でも勝手にデモをすればいいではないか」と、これからはいつでも、どこからでも公園や集会場の「使用許可」を取らないでデモをすればいいのです。11・11の各所から国会に向かう幾筋もの市民の流れは無届けデモの時代が来たことを予感、実感するものでした。石原都政の終わりとともに無届けデモの時代が来ることを期待しましょう。

（よしだ・かずお／本会事務局局長）